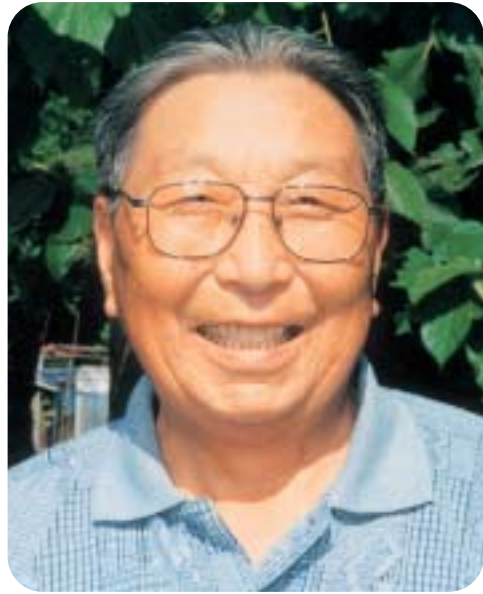


「喜びをくれる孫んどう」



《252》



野崎 定雄さん (76歳・茂市)

★…三歳のとき母親を亡くして、はあさまにおがされました。★…小さいころから体が弱かったため運動した記憶がありません。★…小ざんすども、戦争には徴用はどうでいっていません。★…ほんでもすぐのように終戦になって、戦地にいくこともなく青森(県)から家さ戻ってきました。★…結婚は、同じ茂市生まれの同級生と二十四歳のとき。★…ウラスはおど、おなごが三人です。★…今では孫が十六人だ(笑)。★…ひこ孫も七人、にぎやかで。★…ほんだすかいは今はおがだど二人暮し(笑)。★…久慈(市)にいる孫がしよちゆう遊びに来てくれたため淋しいところが、うれしくて…。★…楽しみは一つは民謡。好ぎで日に三度聞いています(笑)。

「普代の植物散歩」⑧

ハマギク(キク科)

大森 竹之助さん(七二)

住 久慈市

普代村の海岸にハマギクが咲くのは、九月十日過ぎのようである。平成十四年九月十二日に、普代の北浜を散歩しているのを確認した。村内の他の浜のハマギクはまだつぼみだった。今年の場合これがもっとも早い開花ではなかったかと思っている。一週間後には堀内浜も普代浜にも満開の純白の花がたくさん見られた。

特に第一松磯トンネルと第二松磯トンネルの間に立てば、海に突き出した左右の岩山は花ゴザを敷き詰めたように、そして波が砕け散る巨石の隙間の群生は、青空と岩の黒灰色、松の緑、海のエメラルドグリーン、神秘的な白花の自然が作り出した美しさはただうっとりするばかりである。

深くにも花を咲かせている。秋になれば園芸店では、ハマギクの苗をならべ販売している。ある家の庭でハマギクが、栽培されているのを見た。ゴツゴツした石混じりの土でも、元気に育っていた。

ハマギクはキク科の多年草、茎は五〇センチから一メートル、コハマギクに比べて長く、茎の下の部分木質で太い、だから半低



普代浜 (写真: 大森さん提供)

花の茎は六センチ内外で大きい。本州(茨城県から青森県)の北部太平洋岸に自生し、一族一種である。

ハマギクが散って浜は静まり、晩秋へと移っていく。しかしこの季節は鮭漁の最中で、村内の浜は活気にあふれ、漁師たちの笑顔は、ハマギクの明るさを受け継いでいるかのようだ。

川柳の世界



川柳愛好会 八月例会作品

感動と素敵な歌をありがとう
 争いのたえぬ夫も丸くなる
 七十路過ぎに迷い吹っ切れず

一人ではとても入れぬお茶の席
 家族旅取りつけば雨となり
 影法師なんと素敵なパートナリ

気後の後を押されて一迷いに
 この先は八十の山路で行く
 話し合う夫婦に光り満ちあふれ

青い鳥わが胸元にいると知る
 つうかあアレ、コレ、ソレでこと足りる
 先見の明らか段取りそつがない

ともあれ段取りだけはして置こう
 いい汗でたどり着きたい山の上
 師の書いた賀状豊かな墨の濃さ

木といわれている。葉は肉厚で光沢があり、コハマギクとの区別はすぐつく。花は九月中旬から十月中で、下旬には花はおさまり、十一月になれば見られない。